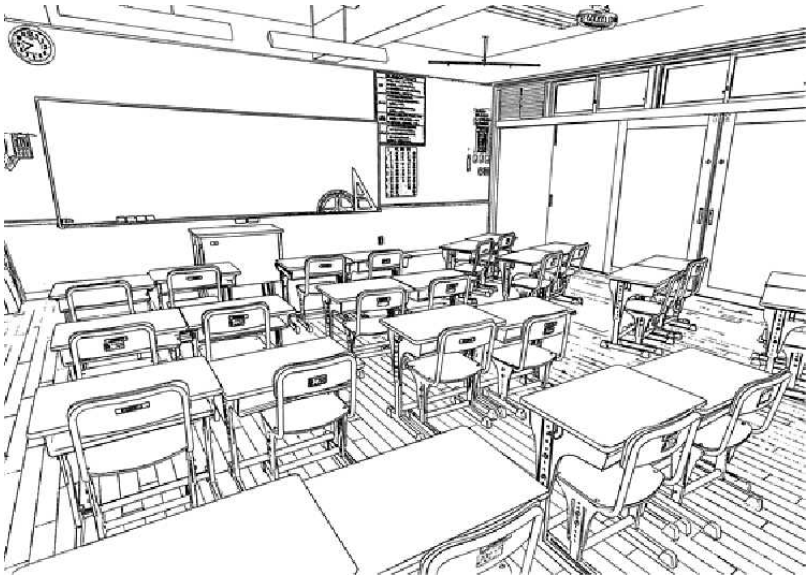
開倫塾教育情報講演会資料　　2017年3月17日(金)

開倫塾 塾長メッセージ

（１）「教科の学習」と同時並行して、「学習方法」と「読解力」も身に着けよう

（２）開倫塾の「学習の３段階理論」とは
―「理解」→「定着」→「応用」―



開倫塾
塾長　林　明夫

塾長メッセージ(1)	2017年3月17日(金)

「教科の学習」と同時並行して、「学習方法」と「読解力」も身に着けよう

開倫塾
塾長 林　明夫

Ｑ１：ズバリ、開倫塾の特長は何ですか。

Ａ　：教科の学習と同時並行して、学習方法と読解力を身に着ける指導を行っていることです。

Ｑ２：なぜ、学習方法と読解力なのですか。

Ａ　：（１）「学習方法」と「読解力」が十分に身に着いている塾生の皆様は、開倫塾のカリキュラムに沿い、開倫塾の教育プログラム通りに教科の学習をきちんとすれば、必ず、学校成績は向上し、第一志望校への合格を果たすことができるからです。

（２）しかし、「学習方法」と「読解力」が身に着いていないと、開倫塾の授業に出ているだけでは、学校成績を確実に向上させることと、第一志望校の合格を「確実」に果たすことは、少し難しいと考えます。

Ｑ３：なぜ、「学習方法」が大切なのですか。

Ａ　：（１）よく考えれば、ご納得いただけると思います。学習には様々な場面があり、各場面ごとに適切と思われる「学習方法」があると、私は考えます。

例えば、

①授業の予習の方法
②授業の受け方
③授業中のノートの取り方、活用の仕方
④復習の方法
⑤定着の方法（定着のための 3 大練習の方法）
⑥定期テストに対する学習方法
⑦模擬試験に対する学習方法
⑧受験学年の年間の学習方法
（春、夏、秋、冬、受験直前、各々の学習方法）
⑨入学試験（筆記試験）に対する学習方法
⑩入学試験（面接試験）に対する学習方法
⑪入学試験（論文試験）に対する学習方法
⑫漢字検定試験に対する学習方法
⑬英語検定試験に対する学習方法
⑭算数・数学検定試験に対する学習方法
⑮高校卒業後、大学等に入ってからの学習方法
⑯採用試験に対する学習方法

⑰学校卒業後の、社会人としての学習方法
⑱資格試験、国家試験に対する学習方法
⑲パソコン、外国語、専門技術の学習方法
⑳生涯にわたって学び続けるための学習方法

（２）これらの各場面ごとに、どのような「学習方法」が一番ふさわしいかを自分の力でじっくり考え、試行錯誤を繰り返しながらも、各場面ごとの目的を達することができるのは素晴らしい能力です。「学習（方法）の学習」ができることは、これからの時代に最も求められる能力と高く評価されます。

（３）ただし、これらの各場面ごとに適切な「学習方法」を、自分の力で探し求め、自分に最もふさわしい「学習方法」を選択し、実行に移すことができる人は極めて少ないのが現状と思われます。

（４）あとになって「ああすればよかった」と考えることができても、自分の人生にとって初めての場合には右往左往するだけで､その場しのぎのことしかできないのが普通ではないかと、私には思われてなりません。

Ｑ４：開倫塾では、塾生が学習方法を身に着けるために、どのような取り組みをしているのですか。

Ａ　：（１）1979 年に開倫塾を創業し、今年で 38 年目に入ります。その間に、塾生・保護者・地域社会の皆様に、一番お困りになっていることは何かをお聞きすると、「学習方法」がわからないという答えでした。

（２）そこで、開倫塾では創業以来一貫して、効果の上がる「学習方法」とは何かを、すべての校舎、すべてのクラスで、先生方が熱心に伝え続けています。

（３）また、お一人お一人に最もふさわしい「学習方法」を、塾生・保護者の皆様とともに考え、その実現に向けて支援させていただいています。

（４）家庭での長時間自己学習が困難な塾生の皆様のためには、開倫塾の空いている学習スペースを夜 10 時 30 分まで提供しています。

（５）開倫塾の広報誌である、毎月 1 日発行の「開倫塾ニュース」では、20 年以上にわたり、その時期その時期の効果の上がる「学習方法」とは何かをすべてのページで特集しています。

（６）開倫塾の教育目標である「自己学習能力を身に着けよう」のコーナーでは、20 年以上にわたり、学年別・教科別に、その月の「学習方法」をわかりやすく解説しています。

（７）塾生の皆様の各学校や各校舎での取り組みも、毎号紹介させていただいています。塾長である私も、毎回、効果の上がる「学習方法」を巻頭言として紹介しています。是非、熱心にお読みいただき、ご活用ください。

（８）塾長が担当する CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間、林明夫の歩きながら考える」（毎週土曜日、朝 9 時 15 分から 10 分間放送）でも、社会人を含めた、効果の上がる「学習方法」を伝え続けてきました。今週の土曜日 3 月 4 日で 31 年目、1561 回目を迎えることができました。

（９）このように、開倫塾では、1979 年の創業以来一貫して、各場面ごとに最もふさわしい、効果の上がる「学習方法」の指導を行っています。開倫塾の特長として認識し、十分にご活用いただきたいと強く希望いたします。

Ｑ５：なぜ、「読解力」が「学校成績の向上」と「第一志望校の合格」に必要なのですか。

Ａ　：（１）開倫塾の塾生の皆様が受験する入試は、

①私立中学校入試
②公立中高一貫校入試
③私立高校入試
④県立高校入試
⑤国立工業専門学校（高専）入試
⑥大学センター入試
⑦私立大学入試
⑧国立大学 2 次試験入試
です。

（２）これらの入試の各教科の問題の文字数を合計すると、文庫本や新書本にして 20 から 30 ページぐらいになります。また、各教科の問題文・設問・選択肢などには、数多くの漢字や難しい表現が含まれます。

（３）入試には、出題される各教科の知識がもちろん必要です。ですから、開倫塾では先生方が必死になって受験に必要な教材を開発し、熱心に授業を行っています。

（４）ただし、身に着けている「ことばの数（語彙数）」が少ないと、問題文・設問・選択肢などを読み解き、正解を導くことが困難です。

（５）また、問題文・設問・選択肢などを読み解くスピードが遅いと、試験時間内に最後の問題までやり終えることが困難です。

（６）せっかく、受験勉強をして各教科の知識を身に着けても、身に着けている「ことばの数（語彙数）」が少なく、問題を時間内に正確に読み解く力（読解力）を身に着けていなければ、第一志望校に合格を果たすことは困難です。

（７）定期テストにも同じことがいえます。「ことばの数（語彙数）」と「読解力」は学校成績の向上に直結します。

Ｑ６：開倫塾では、「読解力」を身に着けるためにどのような取り組みをしているのですか。

Ａ　：（１）開倫塾では、読解力を身に着けるために、「辞書」「新聞」「読書」の活用を推進しています。

（２）身に着けている「ことばの数（語彙数）」が十分でなければ、そこに書いてある内容だけでなく、耳にする内容も理解が困難です。このことは、日本語だけでなく、英語にも当てはまります。

（３）日本語なら、書いてあることは何でもわかる、話されていることは何でもわかるかといえば、必ずしもそうではありません。もっといえば、日本語でも、英語でも、読んでわからないことは聞いてもわからないといえます。

（４）「ことばの数（語彙数）」を増やすには、どうしたらよいのでしょうか。

（５）文章を読んでいて読みや意味などがわからないことばに出合ったら、「気持ちが悪い」と考え、「辞書」を用いて調べること。

（６）「辞書」で調べた内容は「意味調べノート」や「カード」に書き写し、その場で正確に覚えること。

（7）書き写した「ノート」や「カード」は、1 ページ目、1 枚目から毎日繰り返し読み直すこと。

（8）日本語も、英語も、調べたことばは用いられている文章や文脈の中で覚えること。

（9）このようにして、1 日に 10 語から 20 語を「辞書」を用いて調べ、そのことばが使われている文章とともにその場で正確に覚え、「ノート」や「カード」にその意味を書き写して毎日 1 ページ目から繰り返し読み直すこと。

(10) これが、「読解力」を身に着ける 1 番目の取り組みである「ことばの数（語彙数）」を増やす最も確実な方法です。

Ｑ７：「新聞」と「読書」を活用すると、読解力が身に着くのですか。

Ａ　：（１）試験問題を正確に読み解き、正解を導くことができるだけの「読解力」を短期間に身に着けるのに最も効果があるのが、「新聞」と「読書」です。

（2）「新聞」は毎日 1 面からなめるようにていねいに読み、学校の図書室や公立の図書館にあるような本を腰を落ち着けてじっくり読めば、「読解力」は短期間で確実に身に着きます。

（3）「読解力」が不足していると考えられる塾生の皆様には、「新聞」を毎日 30 分間、1 面からていねいになめるように読むことと、図書館から借りてきた本を毎日 30 分間、腰を据えてじっくり読むことをお勧めします。

（4）読んでいて気になった新聞記事は、ハサミで切り取って「スクラップブック」に糊で張り付けましょう。

（5）ただし、図書館の「新聞」や他人の「新聞」を切り取ることは犯罪行為となります。切り取っていいのは、自宅で購読して、不要になった「新聞」のみです。そのときは必ず、保護者の許可を得てください。

（6）保護者の皆様には、家庭で「新聞」を購読し、お子様に「新聞」を毎日よく読むように指導することと、不要になった「新聞」を教材としてプレゼントすることをお願いいたします。

（7）「読書」をしていて、気に入ったことや大切と思われることが書いてあったら、「書き抜き読書ノート」に書名・作者名とともに書き写しましょう。

（8）「新聞」はじっくり読むこと、本もじっくり読むことが大切です。

（9）じっくり読んだら、「新聞」や本に書いてある内容について、折に触れて考えること。できれば、「新聞」や本を読んだ時間の倍ぐらいの時間を用いて、自分の考えをまとめたり、文章にしたりすること。また、みんなで話し合ってみることをお勧めします。

(10)「新聞」や「読書」で得られるのは、「読解力」だけではありません。「新聞」からは「自分で考える力」と「批判的思考能力」が、「読書」からは「思慮深さ」と「自分自身を振り返る力（省察力）」が、少しずつ身に着きます。

Ｑ８：最後に一言どうぞ。

Ａ　：このような「学習方法」と「読解力」の身に着け方の指導を、創業以来 38 年間、教科の学習指導とともにこつこつと行っていることが、開倫塾の大きな特長です。是非ご活用をお願いいたします。

塾長メッセージ(2)	2017年3月17日(金)

《開倫塾に在塾している間に、開倫塾の塾生全員が「効果の上がる学習方法」を具体的に示した「学習の３段階理論」を身に着け、大いに活用しよう。》

Ｑ１：開倫塾の「学習の３段階理論」とは何ですか。

Ａ　：(１)開倫塾の創業者である林明夫塾長が、1979 年の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法です。多くの塾生、保護者、地域社会の皆様が学習する上で一番困っているのは、勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。

(２)学習を「理解」「定着」「応用」の「3 つの段階(ステップ)」に分け、3 つの段階それぞれにふさわしい学び方をわかりやすく具体的に例で示したのが「学習の 3 段階理論」です。

(３)「理解」とは、今学んでいることが「よくわかること」、「定着」とは「『理解』したことを身に着けること」、「応用」とは「『理解』『定着』したことを用いてテストでよい点数を取ること、社会で役立てること」と、1 つ 1 つのことばの意味を―「定義」を大切に―各々「定義」いたします。

memo

(１)開倫塾では、「ことば」の意味について、ものごとの本質とは何かを「価値（大切さ)」「意味」「秩序」の 3 つの点から考え抜き、できるだけ「定義」付ける取り組みを行っています。

(２)１つ１つのものごとを行うときには、各々の「価値（大切さ)」をよく理解した上で、自分なりに「意味付け」をすること。「だから、これはこのように行おう、これは行わないようにしよう」と、自分なりのルール、決まりを決め、「秩序」立った行動をすることが大切と考えるからです。

(３)「価値(大切さ)」「意味」「秩序」を大切に考えた上で、「自律的に行動する能力」を育成することが、「開倫塾の教育目標」の１つである「高い倫理」につながると考えます。

(４)このような理由で、開倫塾では「定義」を大切にします。

(５)ものごとに取り組むときには自分なりの「定義」を考えることを希望します。

Ｑ２：「理解」とは何ですか。

Ａ　：(１)「理解」とは、**「うんなるほどとよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」**と「定義」します。

(２)「理解」には、自分一人で学ぶ(自学自習)の場合と、他人、つまり先生などから授業などで教わる場合があります。

＊もちろん、家族や友人、知人、社会の人々から教えていただく場合もあります。

（３）**「授業中の理解」**のポイント

①**手を机の上**に置き、**先生の目**を見て一言も聞き漏らさないように真剣に話を聞くこと。

②先生の指示に従って**積極的に授業に参加**すること。

③**「必要なことはすべてノートを取る」**こと。「ノートを取る」ことができるのは、極めて高い言語能力の１つです。

④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは、「授業での理解」を著しく妨げます。ですから、できるだけ避けましょう。

⑤授業中によくわからないことがあったら、先生の許可を得て積極的に質問しましょう。意見があったら、先生の許可を得て積極的に発言しましょう。

（４）**「自分で理解」**するときのポイント(**「予習」、「復習」、「自学自習」**のポイント)

①まず学習する教材を決め(「教材決め」)、学校や開倫塾の先生のお話を教室でお聞きするような真剣さで、教材に書き記してある一語、一語を真剣に読み、これはどのようなことかを知る、「理解」する努力をすること。

②教材等に書いてある語句の意味がよくわからないときには、**「気持ちが悪い」**と思い、**「辞書」**や**「用語集」**、**「参考書」**などを用いてその意味を調べること。調べた内容は、必ず**「ノートに書き写す」**こと。「書き写した」ことは、その場で覚えること。

③「計算」や「問題」はすべて自分の力で「ノート」に解いてみること、答えを書いてみること。

④「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が**「予習の意味」**です。

＊「予習」とは**「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」**と「定義」します。

Ｑ３：「定着」とは何ですか。

Ａ　：（１）「定着」とは、**「うんなるほどとよく『理解』した内容を、スミからスミまで身に着けること」**と「定義」します。

（２）「定着」のためには**「音読練習」**、**「書き取り練習」**、**「計算・問題練習」**が有効です。

（３）「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の 3 つの練習を、開倫塾では**「定着のための３大練習」**と「定義」します。

Ｑ４：「音読練習」とは何ですか。

Ａ　：（１）「音読練習」とは、**「うんなるほどと一度『理解』したことを、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習をすること」**と「定義」します。

（２）もし可能であるならば、スラスラとよく読めるようになったら、大事なところだけで OK ですから、「**何も見ないで**スラスラと口をついて出てくるようになるまで、スミからスミまですべて覚えること」を目指してください。これを**「暗誦（あんしょう）」**といいます。

Ｑ５：「書き取り練習」とは何ですか。

Ａ　：（１）「書き取り練習」とは、**「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書（教科書の書体）で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」**と「定義」します。

（２）「筆順」も大切です。

（３）「**何も見ないで**書けるようにすること」を**「暗写」**といいます。大切な内容は「暗写」を目指しましょう。

memo

（１）英語は**「ブロック体」**だけでなく、**「筆記体」**で**「美しく書く練習」**をすることをお勧めします。

（２）地名や人名などの固有名詞も正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をしましょう。

（３）学校時代に習い覚えた語句は一生役に立ちます。また、一生覚えています。ですから、「このことばの書き取り練習をするのは、一生で一回きり、今だけだ」と考えて、気持ちを込めて書き取り練習をしましょう。

Ｑ６：「計算・問題練習」とは何ですか。

Ａ　：（１）これを「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と開倫塾では読みます。

（２）「計算・問題練習」とは、「なぜそのような解答になるかがよく『理解』できた**計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」**と「定義」します。

（３）なぜそのような答えになるかについて、よく「理解」していない計算や問題は、答えだけ覚えても、あまり意味はありません。まずは「理解」に努めてください。どうしてもよく「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生にどんどん質問してください。わかるようになるまで何回でも質問してください。

Ｑ７：「定着のための３大練習」をする上で大切なことは何ですか。

Ａ　：（１）**「練習は不可能を可能にする」**という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。開倫塾では、**「定着のための３大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、３大検定毎年合格を可能にする」**と考えます。

（２）ただし、「定着のための 3 大練習」の大前提は、「授業」や「自習（自己学習）」で「定着」させるべき内容がうんなるほどとよくわかっていること、つまり十分に「理解」していることです。

（３）十分に「理解」していない意味・内容でも、音読や書き取り、計算・問題練習を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなこともありますが、「定着のための 3 大練習」をする前に、内容の「理解」に向けての取り組みをできるだけ行うべき

と考えます。

（4）「ここに書かれているのはどのような意味なのか」、また、「なぜこのような解答になるのか」などと、その「意味」や「価値(大切さ)」を十分に「理解」した上で、「定着のための 3 大練習」を行い、「理解」したことをスミからスミまで身に着けてください。

（5）「定着のための 3 大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「すべての模擬試験」「3 大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」で絶大な効果を発揮します。

（6）もっと大切なのは、「授業中に取ったノート」や「意味調べノート」、「間違いノート」、「まとめノート」など、自分でつくったありとあらゆるノートを用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、それらの「ノートをスミからスミまで覚え切る」ことです。

＊ですから、覚えやすいように、いつも「ノート」を「整理」することです。これらはすべて大切な「能力」です。

Ｑ８：「応用」とは何ですか。

Ａ　：（1）「応用」とは、**「試験でよい点数が取れること」**と**「社会で役立てることができること」**と「定義」します。

（2）**「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること」、「入学試験や検定試験、資格試験、国家試験、採用試験等で合格点が取れること」**と「定義」します。

（3）試験でよい点数を取るためには、「理解」、「定着」を図った上で「過去問」と「予想問題」を繰り返し学習することが最も効果的です。

（4）「過去問」とは、**「その試験で過去に出題された問題」**と「定義」します。

①多くの試験には「過去問」があります。試験の 2 ～ 3 か月前から「過去問」を数年分、最低でも 5 ～ 6 年分、できれば 10 年分以上を 5 ～ 6 回繰り返して学習すること。

②最低でも 5 ～ 6 年分、できれば 10 年分以上の「過去問」の、「本文」・「設問」・「選択肢」・「解答・解説」のすべてについて、「辞書」や「用語集」、「参考書」を用いて「理解」を図ること。十分に「理解」したあとは、「定着のための 3 大練習」を徹底的に行うこと。

③**「間違いノート」**と**「まとめノート」**を作成すること。

（5）「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。

①開倫塾の「定期試験対策予想問題」、「模擬試験対策予想問題」、「入学試験対策予想問題」、「3 大検定試験対策予想問題」などの「的中率」が極めて高いことは、定評があります。

②それらを授業などで解き、答え合わせをしたあとで、5 ～ 6 回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための 3 大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。

（6）何年分の過去問に挑戦したらよいかは、試験の難易度によります。また、受験生の熱心さによります。どんな試験でも絶対に合格を目指すなら、最低でも 5 ～ 6 年分、ふつうは 10 年分以上、熱心な人は 15 ～ 20 年分以上、各々 5 ～ 6 回以上挑戦するようです。

Ｑ９：社会で役立てる「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

Ａ　：（１）すべての科目の学習は学問体系に従ってでき上がっていますので、積み重ねです。ですから、学校や開倫塾で学んだことは上級学年や上級学校ですべて役立ちます。小学校で学んだことは中学校で、中学校で学んだことは高校で役立ちます。高校で学んだことは大学・短期大学・専門学校・大学院で役立ちます。高校や大学等で学んだことはすべて社会で役立ちます。

（２）このように、上級学校や社会で役立てるためには、学校や開倫塾で今までに学んだことを、必要に応じて即座に引き出せなければなりません。

（３）ですから、大切なことは、学校や開倫塾で学んだ教科書・教材・資料・参考書、授業ノートは絶対に処分しないことです。できれば、すぐに取り出して見られるように、一生にわたって常に身近に置いておくことです。

（４）何かものごとを考えるときには、ゼロから考えることも大切ですが、教科書などを用いて、学校で学んだことをもう一度学び直してみることが大切です。

Ｑ10：「学力」とは何ですか。

Ａ　：（１）「学力」とは、**「主体的に学ぶ力」**と「定義」します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。

（２）この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間自己学習」ができる能力を身に着けることが求められます。

（３）「学習の 3 段階理論」をやり抜くには、「ハードな長時間自己学習」と「主体的に学ぶ力」が不可欠です。

Ｑ11：「ハードな長時間自己学習」ができるのは大切な能力なのですか。

Ａ　：（１）その通りです。

（２）何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むという意味での「予習」には、膨大な時間が必要です。ことばの意味を調べるのにも、計算や問題を解くのにも、ノート整理をするのにも時間がかかります。

（３）十分に「理解」した内容について、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をし、楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をし、計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」をするのにも膨大な時間を要します。

（４）最低でも 5 ～ 6 年分以上、できれば 10 年分以上の過去問に 5 ～ 6 回挑戦し、「間違いノート」「まとめノート」を作成するのにも膨大な時間を要します。

（５）この「ハードな長時間自己学習」をすることができるのは、大切な能力です。この能力はすぐには身に着きません。しかし、この能力は上級学校でも、社会に出てからも、本気で勉強するとき・本気でものごとに取り組むときに必ず役立ちます。

（６）現代は「知識社会」です。知識が基盤となった社会で生き抜く上での大きなヒントが、学

校で学んだ内容の中にたくさん含まれています。

（７）自覚を持って「主体的に学ぶ」中で、少しでもこの「ハードな長時間自己学習」を行う能力を身に着けてください。

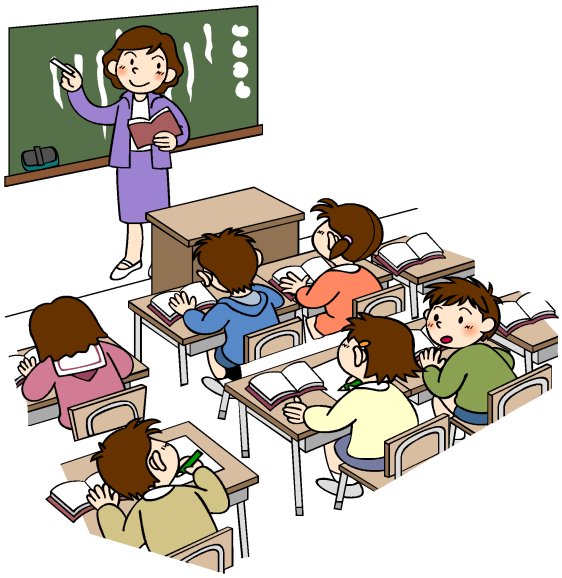
Ｑ12：最後にお聞きします。「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

Ａ　：（１）**「本人の自覚」、「自覚をもって学ぶこと」**だと考えます。

（２）「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかなどを「自覚」して、「主体的に学ぶこと」、「自分から進んで学ぶこと」が大切だと考えます。

（３）開倫塾では、本人の自覚を促すことを目的にした「**武者語り**（むしゃがたり）」を毎回の授業で 3 分以上することを、すべての先生が心掛け、実行しています。

（４）開倫塾の先生方の「武者語り」を聞き、開倫塾の塾生として自覚をもって勉強するために、ご活用ください。

（５）2017 年 3 月 4 日（土）で 31 年を迎えた CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間―林明夫の歩きながら考える」毎週土曜日 9:15 ～ 9:25 放送（1530kHz、1062kHz、864kHx）は、塾長のラジオ放送による「武者語り」です。開倫塾の HP の中の林明夫塾長のコーナーには、放送内容の速記録があります。是非、ご活用ください。

（宇都宮大学大学院工学研究科客員教授）